

令和7年度 第1回ふるさと大垣科推進委員会 会議録

- 1 **と き** 令和7年7月3日（木） 15:00～16:15
- 2 **と ころ** 大垣市役所6階 教育委員会室
- 3 **出席者** 山田敏弘委員長、杉本めぐみ委員、古田潔香委員、小見山麻衣委員、
 栗山一嘉委員、名和茂樹委員、長井克義委員
- 4 **事務局** 細江教育長、小倉学校教育課長、富田教育総合研究所長、
 林学校教育課主幹、栗原主任指導主事
- 5 **傍聴者** なし

6 **議 題** **報告事項**

- (1) 文部科学省教育課程特例校指定について
- (2) 昨年度の「9年間のまとめの活動」について

議第1号

デジタルテキスト、こども歳時記「季寄せ」について

6 **会議の結果**

(1) 議題1号に関して

- ① 季寄せ掲載までの流れ・・・・・・・・・・・・・・・・提案のとおり
- ② テキスト改訂委員会の組織について・・・・・・・・提案のとおり
- ③ 季寄せの大まかなデザインの方向について
 - ・著作権の問題は弁護士に確認する。
 - ・様々なイメージと言葉を結びつける形で記載する。
 - ・できれば室内と室外で作成する。
 - ・大垣に関わるもの、大垣の児童生徒の使いやすさで字の大小を変える。
 - ・確認の上、可能であれば、デジタルの利便性を考えて作成する。

7 **会議の経過**

- ・第2回ふるさと大垣科推進委員会にて、季寄せデザイン案を検討

開会 15:00

発言者	発言内容
委員長	はじめに、 報告事項1「ふるさと大垣科の文部科学省特例校指定について」 報告事項2「昨年度のふるさと大垣科9年間のまとめの活動について」 説明をお願いします。
事務局	報告事項1「ふるさと大垣科の文部科学省特例校指定について」 報告事項2「昨年度のふるさと大垣科9年間のまとめの活動について」 〈別紙資料に基づき説明〉
委員長	ご意見、ご質問はよろしいか。
委員	ふるさと大垣科の文部科学省特例校指定はどの学校が対象ですか。
事務局	市内全ての学校が対象です。
委員長	その他ご意見、ご質問はよろしいでしょうか。 それでは、 議案「デジタルテキストのこども歳時記『季寄せ』について」 説明をお願いします。
事務局	議第 1号「デジタルテキストのこども歳時記『季寄せ』について」 (1) 季寄せ掲載までの流れ (2) テキスト改訂委員会の組織について (3) 季寄せの大まかなデザインの方向について 〈別紙資料に基づき説明〉
委員長	ご意見、ご質問はよろしいか。 (1) 掲載の流れ (2)委員会の組織については、事務局の説明とおり、進めてまいります。 (2) 季寄せのおおまかなデザインの方向について 従来の季寄せを載せると継続的に支払いが必要になるため、大垣独自のものをつくることになりました。案2は以前の季寄せに似ている点もありますが、この程度の類似点であれば良いかと思いますがいかがでしょうか。
事務局	大垣科の教科書を見られる人には制限があります。
委員	もし、案2を印刷すると、一般の目に触れる可能性がありますので使用規定を載せる必要があります。 以前掲載されていた季寄せのよさは、室内と室外が分けてあるところでした。

発言者	発言内容
	案1のように分類がしてあっても、児童生徒はあまり使わない。 案2のように、その場面が想像できる方が使いやすい。以前の季寄せのように、室内の場面を付け加えることは可能ですか。
事務局	可能です。
委員長	学校現場の先生方はどう考えておられますか。
委員	指導するとき絵で見て言葉の意味を調べ、新しい言葉で挑戦する子と、知っている言葉でつくる子がいました。言葉が多く掲載してあるのはありがたいです。 以前の季寄せは、文字のサイズが大きいものと小さいもので記載されていたので印象に残りやすかったです。 低学年の国語の教科書にも以前の季寄せと同様の絵と言葉を結びつけるような資料ページがありましたので、第2案が以前の季寄せの模倣であるとは言えないのではないかと思います。
委員	他にも事例があるということが証明できれば、以前の季寄せとは異なることが主張できるのではないのでしょうか。 絵と言葉を結びつけるということでは、案1より案2の方がよいということでした。そうすると以前の季寄せに似てくることになりますが、絵と言葉をつなげるということは、一般的に知られた概念です。特に外国の子どもたちにも絵と言葉を結びつけやすいということでもご指摘いただきました。 文字の大きさについても、以前の季寄せでは、使いやすい言葉が大きく記載されていましたが、案2では大きさが同じです。この点について意図はありますか。
事務局	どれくらいの季語が掲載できるかを数える目的で、同じ大きさのものを配置しています。おそらくこの会で文字の大きさについてもご意見いただけると考えておりました。大・中・小で掲載いたします。
委員長	こういった場合の字の大きさについてはどのように考えますか。
委員	俳句的な言葉を大きく、派生した言葉については、小さくすると良いと思います。また、子どもたちの生活の中に大きく関わるものを大きくすると良いと思います。
委員長	文字の大小でも、大垣独自の選定に基づいて表記する、また以前の季寄せとは違った大垣独自のオリジナリティを出すと良いと思います。 例えば、水まんじゅうは季語として使えますか。

発言者	発言内容
委員	実は季語ではありません。ただ、大垣で使うならということで、夏の季語としてつかうこともあります。季語として使い、それが全国的に広まると、季語として認められていくこともあるかと思います。
委員	独自性を打ち出していく意味で、「大垣まつり」はユネスコ無形世界遺産ですので、季語として入れてはどうですか。
委員	夏の季語にいれると良いと思います。
委員長	大垣城のイラストのところに特設コーナーを設けて、大垣まつりに関するコーナーをつくっても良いかと思います。 ものによっては、季語かどうかが曖昧なものもありますので、その指導の仕方については検討しながら、大垣らしいのものを作っていくのが大切だと思います。
委員	例えば水まんじゅうなら、かつこをつけておいて、「大垣市で使うならよい」としてもよいのではないのでしょうか。日新のカミツレや加賀野のハリヨなど、市の財産についても掲載してはどうでしょうか。
委員	案2の方がイラストもあり、小学生にもイメージが広げやすく、見やすいと思います。
委員	案2は、絵と季語を結びつけています。文字の大きさも変えて掲載するということになる、絵は独自ではあるが、以前の季寄せに類似しています。著作権に関しては、大丈夫ですか。
委員長	先ほどの議論にありましたように、様々な春のイメージが多様にあり、案2のイラストはその中の一つであり、季寄せに特化した絵ではありません。しかし、最終的に調べていただく必要があります。
委員	絵は独自のものですが法律的な問題で、字と絵で結びつくことに関しては、著作権の問題はクリアできますか。
委員長	江戸時代の辞書は、絵と言葉を結びつける表記になっています。著作権に関しては素人ですが、絵と言葉を結びつけることで著作権が発生するというのは無理があるように思います。もちろん法律の専門家に助言いただく必要はありますが、字の大きさについても大垣独自の選定でということであれば、違ったものが作成できます。
委員	そこがクリアになっているのであれば良いと思いますが、せっかくデジタルなので、画面を押すと文字が出てくるなど工夫はできると思います。
委員	風船のイラストから遊びに関する季語が出てくるというように、イメ

発言者	発言内容
	ージを広げて記載するのも良いと思います。
教育長	季語そのものには著作権がありませんので、その配置やデザインが重要になります。大垣独自の言葉を入れたり、大垣の子どもに使いやすいよう大きい字にしたりするなど、オリジナリティと言えるものがあれば良いのではというご意見いただきました。 これらを事務局で整理し、法律の専門家にアドバイスをいただきます。大垣市にも顧問弁護士がいらっしゃいますので、その方を窓口で著作権の専門の方に相談することができます。 また、デジタルならではの仕掛けがあると、全く異なる魅力的なものになります。
事務局	実現可能かどうかは、印刷会社に確認いたします。
委員	もともと2ページあるものを1ページにすることで、掲載される文字の数が少なくなります。また、1ページに掲載することで、絵に重なって見にくくなります。選定される先生方は大変だと思いますが、新しい季寄せも2ページになると良いと思います。
委員	もしデジタルのよさを生かすのであれば、1ページに圧縮されていても大丈夫なのではないでしょうか。
教育総合研究所長	案2が良いと思います。 もし自分が作成するなら、大垣ならではのものはフォントや色、大きさなどを変えます。なぜなら大垣で俳句を学んでいることの独自性を出せるからです。例えば、水に関連する要素を青色で表示したり、水に関わる季語を特別に扱ったりすることで、大垣の水の文化との結びつきも協調できます。また、蛤を押すと芭蕉について紹介する文が表示される、大垣についての情報が表示されるなどの機能も考えられます。
委員長	著作権の問題で以前の季寄せが使えないところがスタートでしたが、よりよいものができそうです。 またデジタルであれば、一度に完成せず、何年かかけて作っていく季寄せの、今年度は土台をつくっていると考えても良いと思います。
教育長	大垣の大事にしている言葉を表示できるようにできるのはよいことです。季寄せは俳句のために使うものですが、大垣で作られた芭蕉の俳句の解説が表示されるなど、大垣のことが分かるようにするのもおもしろいと思います。

発言者	発言内容
委員	「蛤のふたみに別れ行く秋ぞ」の蛤は春の季語なのに、秋と入っている、その句の解説も入れることができます。
委員長	著作権の問題は確認の上、様々なイメージと言葉を結びつける、分量の問題、字の大小の問題、どういった言葉を取り入れるか、デジタルの利便性を考えるとより発展的な形に作り上げていくことができるということを結論とします。 第2回委員会で案を見せていただくことを、楽しみにしています。

閉会 16:15